

東郷の歴史 シリーズ7

月 東郷行進歌

とうごうそん か よ
(東郷村歌)とも呼ばれています)

とうごうちょう いま まえ たいしやう
東郷町では、今から100年ほど前の大正10年(1921年)頃に「東郷行進歌」が生まれました。

ころ しょうがつこう じんじやうこうとう げんざい
その頃、小学校は東郷尋常高等小学校(現在の東郷小学校)だけでした。村の区域は今と同じで
すから児童の通学は、距離もあり時間もかかって大変だったようです。

ころ どうろ ひと とお ほそ みち つうがくとちゆう
その頃の道路は、人が通るだけの細い道でした。そのため通学途中にイノシシやキツネ、ヘビな
どに出会うことも多かったのではないのでしょうか。このときの久米錠太郎校長が、児童の登下校時
に大きな声で歌わせたそうですので、通学の安全を考 えて作った曲と思われます。

うた たいしやう せんぜん しゆうせん げんざい
歌は、大正10年(1921年)から、戦前か終戦(1945年)頃まで歌われていたようです。現在、
70歳代以上の東郷育ちの古老の方たちが、実際に歌っていたと考 えられます。

こ せんぜん きやうど れきし ぶんか うた まな はいりよ ばん
子どもたちの安全とともに郷土の歴史や文化を歌で学べるように配慮されており、7番まである
歌詞が、それぞれ意味深い内容となっています。

1番 ♪ 我等諸輪に生れきて 和合の里に風波なく

し じ はる き はな さ どうごうむら
四時春木に花咲きて 東郷村のたのしさよ

とうごうむら もろわ わごう はる き きゆうむら こうせい あらわ
東郷村が「諸輪、和合、春木」の3つの旧村で構成されていることを表しています。
「春木村」の名の由来は、傍示本と部田の産土社である春日社の「春」と祐福寺の産土社で
ある富士浅間社の祭神“木花咲耶 姫 命”の「木」を象徴していると伝えられています。
このことから“春木”を“ハルコ”と読んでいた時代もあるようです。

2番 ♪ 人口三千二百人 戸数六百六十余

みず ほ くに な のうぎやうはげ もの
瑞穂の国の名において 農業励まぬ者もなし

か し うた じんこう にん こすう よ がっち たいしやう
歌詞に歌われている「人口3,200人」と「戸数660余」が合致するのは、大正10年(人口 3,261
人、戸数 662 戸)で、久米錠太郎校長の在任期間は、大正9年から昭和3年まででした。

3番 ♪ 富士浅間社春日社も 白鳥神社もきこしめせ

われらうじこ いの われら きやうどさち
我等氏子の祈るなる 我等が郷土幸あれと

かくちく うぶすなしや ふ じ せんげんじんじや ゆうふくじ ちく かすがしや わごう ほうじもと へ た
各地区の産土社として、富士浅間神社(祐福寺地区)、春日社(和合地区、傍示本地区、部田
地区)、白鳥神社(諸輪地区)があることを表しています。

4番 ♪ けんきゅうにねん むかし よりつなにゆうどうれんしやう そうけん ゆうふくじ いま とうと み だ じ ひ
建久二年のその昔 頼綱入道蓮生が 創建なせし祐福寺 今も尊し弥陀の慈悲

ぎよくしやうさんゆう ふくじ うつのみ やよりつなにゆうどうれんしやう けんきゅう そうけん つた
玉松山祐福寺は、宇都宮頼綱入道蓮生により建久2年(1191年)に創建されたと伝えられ
ています。じやうどしゆうにしやまぜ んりんじ は ほんざんえいかんどう ちゆうほんざん かくしき も しちどうがらん ゆう
浄土宗西山禅林寺派(本山永観堂)の中本山としての格式を持ち、七堂伽藍を有す
る大寺院で、江戸時代には30以上の下寺を有していました。

(村誌には「蓮心」と記載されているが、「蓮生」が正しい。)

5番 ♪ うこんだゆう よ ちょう じやうし いま のこ
右近太夫が抛りしてふ 城址は今も残りける

むかし さま わ むら
昔の様もしのばれて いよいよ我が村なつかしや

せんごくじだい に わ し しろ やかた とりで けいじやう もろわ ほうじもと うこんだゆう
戦国時代には丹羽氏の城(館)や砦のような形状が、諸輪や傍示本にもありました。右近太夫
に わうじかつ いわさきじやう もろわかみじやう ほうじもとじやう じやうしゆ
は丹羽氏勝(1523～1597年)のことで、岩崎城や諸輪上城、傍示本城の城主でした。

6番 ♪ きやういくちやくご ふくよう ぼしん しやうしよ
教育勅語を服庸し 戊申の詔書をかしこみて

きんけんさん おさ こころ みが ずな
勤儉産を治めつつ 心をみがかむ磨き砂

きやういくちやくご めいじ ぼしん しやうしよ うやま きんべん けんやく さんぎやう のうぎやう どりよく
教育勅語(明治23年)や戊申の詔書(明治41年)を敬い、勤勉、儉約、産業(農業)に努力し、
こころきよ い とうごう みが ずな と ち ひやうげん
心清く生きることと、東郷が磨き砂の採れる地であることを表現しています。

7番 ♪ けん ひやうしやう う な けが
かつて県より表彰を 受けしその名を汚さじと

がくぎやうはげ り そう きやうど
いよいよ学業励みつつ 理想の郷土ひらかまし

とうごうじんじやうこうとうしやうがっこう けん ひやうしやう ぼこ せいと さら がくぎやう はげ じだい
東郷尋常高等小学校が県から表彰されたことを誇りとし、生徒たちが更に学業に励み、次代の
とうごう にな じんざい いくせい つと とうごうじんじやうこうとうしやうがっこう ひやうげん ひやうしやう う
東郷を担っていく人材の育成に努める東郷尋常高等小学校を表現しています。表彰を受けたの
たいしやう しやうがっこう じんじやうこうとうしやうがっこう しやう たいしやう しやうわ
は大正8年で、小学校が「尋常高等小学校」と称されていたのは大正4年～昭和15年です。

※ この「東郷行進歌」について記述している印刷出版物には、以下のものがありますので、内容等の確認は、それぞれをご覧ください。

「東郷村誌(315頁)」(発刊:東郷村)、「東郷小学校70周年記念誌(77頁)」(発刊:東郷小学校)

「傘寿を迎えて(10頁)」(発刊:野々山啓)、「東郷の民謡(98頁)」(発刊:東郷町教育委員会)

2000年3月制作の町制30周年記念「ふれあいシティー東郷」のCDで視聴することができます。